

## 『 計 算 書 類 に 対 す る 注 記 』

別紙 1	計算書類に対する注記	
別紙 2	計算書類に対する注記	本部拠点区分
		高年者センター岡崎(社)拠点区分
		養護老人ホーム拠点区分
		中央地域福祉センター(社)拠点区分
		北部地域福祉センター(社)拠点区分
		南部地域福祉センター(社)拠点区分
		西部地域福祉センター(社)拠点区分
		東部地域福祉センター(社)拠点区分
		希望の家拠点区分
		のぞみの家拠点区分
		そだちの家拠点区分
		にじの家拠点区分
		みのりの家拠点区分
		友愛の家拠点区分
		こども発達支援センター拠点区分
		こども支援センターすだち拠点区分
		高年者センター岡崎(公)拠点区分
		年金者住宅ゆとりの里拠点区分
		中央地域福祉センター(公)拠点区分
		北部地域福祉センター(公)拠点区分
		南部地域福祉センター(公)拠点区分
		西部地域福祉センター(公)拠点区分
		東部地域福祉センター(公)拠点区分
		こども発達センター拠点区分
あずき拠点区分		
こども支援センターみどり拠点区分		



## 計算書類に対する注記（法人全体用）

### 1. 継続事業の前提に関する注記

該当なし

### 2. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券  
償却原価法（定額法）によっている。
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券  
市場価格等に基づく時価法によっている。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 3. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 4. 法人で採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 5. 法人が作成する財務諸表等と拠点区分、サービス区分

当法人が作成する財務諸表は以下の通りになっている。

- (1) 法人全体の財務諸表（第一号第一様式、第二号第一様式、第三号第一様式）
- (2) 事業区分別内訳表（第一号第二様式、第二号第二様式、第三号第二様式）
- (3) 社会福祉事業における拠点区分別内訳表（第一号第三様式、第二号第三様式、第三号第三様式）
  - ・ 「にじの家日中一時支援」は公益事業だが、主たる社会福祉事業と一体的に実施する小規模な公益事業として社会福祉事業の「にじの家」の拠点に含める。
  - ・ 「みのりの家日中一時支援」は公益事業だが、主たる社会福祉事業と一体的に実施する小規模な公益事業として社会福祉事業の「みのりの家」の拠点に含める。
- (4) 公益事業における拠点区分内訳表（第一号第三様式、第二号第三様式、第三号第三様式）
- (5) 各拠点区分におけるサービス区分の内容
  - 本部拠点(社会福祉事業)
    - 「本部」
    - 高年者センター岡崎拠点(社会福祉事業)
      - 「高年者老人福祉センター」
      - 「高年者デイサービスほほえみ」
      - 「高年者デイサービスほのぼの」
      - 「ヘルパーステーション岡福」
    - 養護老人ホーム拠点(社会福祉事業)
      - 「養護老人ホーム入所」
      - 「養護老人ホーム短期保護」
    - 中央地域福祉センター拠点(社会福祉事業)
      - 「中央老人福祉センター」
      - 「中央デイサービスほほえみ」
      - 「中央デイサービスほのぼの」
    - 北部地域福祉センター拠点(社会福祉事業)

「北部老人福祉センター」  
 「北部デイサービスほほえみ」  
 「北部デイサービスほのぼの」  
 南部地域福祉センター拠点(社会福祉事業)  
 「南部老人福祉センター」  
 「南部デイサービスほほえみ」  
 西部地域福祉センター拠点(社会福祉事業)  
 「西部老人福祉センター」  
 「西部デイサービスほほえみ」  
 東部地域福祉センター拠点(社会福祉事業)  
 「東部老人福祉センター」  
 「東部デイサービスほほえみ」  
 希望の家拠点(社会福祉事業)  
 「希望の家就労移行支援」  
 「希望の家就労継続支援B型」  
 のぞみの家拠点(社会福祉事業)  
 「のぞみの家就労継続支援B型」  
 「のぞみの家生活介護」  
 そだちの家拠点(社会福祉事業)  
 「そだちの家生活介護」  
 にじの家拠点(社会福祉事業)  
 「にじの家生活介護」  
 「にじの家日中一時支援」  
 みのりの家拠点(社会福祉事業)  
 「みのりの家短期入所」  
 「みのりの家日中一時支援」  
 友愛の家拠点(社会福祉事業)  
 「友愛の家」  
 「福祉の村相談支援」  
 こども発達支援センター拠点(社会福祉事業)  
 「支援センター児童発達支援」  
 「支援センター保育所等訪問」  
 こども支援センターすだち拠点(社会福祉事業)  
 「児童発達支援すだち」  
 「放課後等デイサービスすだち」  
 高年者センター岡崎拠点(公益事業)  
 「高年者居宅介護支援事業所」  
 「高年者地域包括支援センター」  
 「ふじ地域包括支援センター」  
 「要介護認定調査事業」  
 「法人後見事業」  
 「福祉人材育成事業」  
 年金者住宅ゆとりの里拠点(公益事業)  
 「年金者住宅ゆとりの里」  
 中央地域福祉センター拠点(公益事業)  
 「中央居宅介護支援事業所」  
 「中央地域包括支援センター」  
 北部地域福祉センター拠点(公益事業)  
 「北部居宅介護支援事業所」  
 「北部地域包括支援センター」  
 南部地域福祉センター拠点(公益事業)  
 「南部居宅介護支援事業所」  
 「南部地域包括支援センター」  
 西部地域福祉センター拠点(公益事業)  
 「西部居宅介護支援事業所」  
 「西部地域包括支援センター」  
 東部地域福祉センター拠点(公益事業)  
 「東部居宅介護支援事業所」  
 「東部地域包括支援センター」  
 こども発達センター拠点(公益事業)  
 「こども発達センター等管理事業」  
 あずき拠点(公益事業)  
 「放課後等デイサービスあずき」  
 こども支援センターみどり拠点(公益事業)  
 「児童発達支援みどり」  
 「放課後等デイサービスみどり」

## 6. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は以下のとおりである。

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
---------	-------	-------	-------	-------

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
建物	66,680,608	231,727,257	22,275,613	276,132,252
定期預金	3,000,000	0	0	3,000,000
土地	42,936,001	0	0	42,936,001
合計	112,616,609	231,727,257	22,275,613	322,068,253

### 7. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 8. 担保に供している資産

該当なし

計	0 円
計	0 円
計	0 円
計	0 円

### 9. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び、当期末残高は以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
器具及び備品	50,621,583	24,551,479	26,070,104
建物	940,461,664	371,832,892	568,628,772
構築物	7,995,500	2,184,361	5,811,139
車輛運搬具	21,255,565	17,177,528	4,078,037
土地	129,579,722	0	129,579,722
合計	1,149,914,034	415,746,260	734,167,774

### 10. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
合計	0	0	0
合計	0	0	0

### 11. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は以下のとおりである。

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
H27年度第10回 愛知県公債	200,000,000	203,155,200	3,155,200
H27年度第15回 愛知県公債	50,000,000	50,757,500	757,500

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
第419回大阪府公募公債	100,154,534	100,407,700	253,166
合計	350,154,534	354,320,400	4,165,866

## 12. 関連当事者との取引の内容

該当なし

(単位：円)

種類	法人等の名称	住所	資産総額	事業の内容 又は職 業	議決権 の所有 割合	関係内容		取引の内容	取引金額	科目	期末残高
						役員の兼 務等	事業上の 関係				

## 13. 重要な偶発債務

該当なし

## 14. 重要な後発事象

該当なし

## 15. 合併及び事業の譲渡若しくは事業の譲受け

## 16. その他社会福祉法人の資産収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（本部用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は、以下の通りになっている。

- (1) 本部拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3 (㊿))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3 (㊿))  
「本部」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は以下のとおりである。

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
定期預金	3,000,000	0	0	3,000,000
合計	3,000,000	0	0	3,000,000

### 6. 会計基準第3章第4（4）及び（6）の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

0 円

計

0 円

計

0 円

0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
土地	86,643,721	0	86,643,721
建物	7,864,790	631,672	7,233,118
構築物	4,750,500	1,589,445	3,161,055
器具及び備品	1,669,260	872,217	797,043
合計	100,928,271	3,093,334	97,834,937

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は以下のとおりである。

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
H27年度第10回 愛知県公債	200,000,000	203,155,200	3,155,200
H27年度第15回 愛知県公債	50,000,000	50,757,500	757,500
第419回大阪府公募公債	100,154,534	100,407,700	253,166
合計	350,154,534	354,320,400	4,165,866

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（高年者センター岡崎(社)用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) 高年者センター岡崎拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「高年者老人福祉センター」  
「高年者デイサービスほほえみ」  
「高年者デイサービスほのぼの」  
「ヘルパーステーション岡福」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

### 6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
	0 円
計	0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	7,635,600	509,040	7,126,560
車輛運搬具	4,095,250	4,095,248	2
器具及び備品	5,083,594	3,117,795	1,965,799
合計	16,814,444	7,722,083	9,092,361

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（養護老人ホーム用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) 養護老人ホーム拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))  
「養護老人ホーム入所」  
「養護老人ホーム短期保護」
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「養護老人ホーム入所」  
「養護老人ホーム短期保護」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

### 6. 会計基準第3章第4（4）及び（6）の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
	0 円
計	0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

該当なし

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	3,031,160	16,923	3,014,237
器具及び備品	1,833,248	884,838	948,410
合計	4,864,408	901,761	3,962,647

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（中央地域福祉センター(社)用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) 中央地域福祉センター拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「中央老人福祉センター」  
「中央デイサービスほほえみ」  
「中央デイサービスほのぼの」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

### 6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
	0 円
計	0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	1,476,120	481,336	994,784
器具及び備品	2,343,050	1,296,605	1,046,445
合計	3,819,170	1,777,941	2,041,229

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（北部地域福祉センター(社)用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) 北部地域福祉センター拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「北部老人福祉センター」  
「北部デイサービスほほえみ」  
「北部デイサービスほのぼの」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

### 6. 会計基準第3章第4（4）及び（6）の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
	0 円
計	0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	747,890	4,174	743,716
車輛運搬具	3,820,730	2,552,244	1,268,486
器具及び備品	2,148,707	1,130,844	1,017,863
合計	6,717,327	3,687,262	3,030,065

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（南部地域福祉センター(社)用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) 南部地域福祉センター拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「南部老人福祉センター」  
「南部デイサービスほほえみ」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

### 6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
	0 円
計	0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	490,995	2,740	488,255
車輛運搬具	4,100,000	4,099,999	1
器具及び備品	1,183,962	592,914	591,048
合計	5,774,957	4,695,653	1,079,304

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（西部地域福祉センター(社)用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) 西部地域福祉センター拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「西部老人福祉センター」  
「西部デイサービスほほえみ」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

### 6. 会計基準第3章第4（4）及び（6）の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
	0 円
計	0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	566,910	3,165	563,745
器具及び備品	1,482,637	821,745	660,892
合計	2,049,547	824,910	1,224,637

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（東部地域福祉センター(社)用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) 東部地域福祉センター拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「東部老人福祉センター」  
「東部デイサービスほほえみ」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

### 6. 会計基準第3章第4（4）及び（6）の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
	0 円
計	0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

該当なし

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	523,792	2,923	520,869
器具及び備品	1,452,116	722,404	729,712
合計	1,975,908	725,327	1,250,581

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（希望の家用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) 希望の家拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「希望の家就労移行支援」  
「希望の家就労継続支援B型」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
建物	0	31,591,267	4,517,551	27,073,716
合計	0	31,591,267	4,517,551	27,073,716

### 6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
	0 円
計	0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	31,591,267	4,517,551	27,073,716
建物	1,625,580	19,769	1,605,811
車輛運搬具	1,676,000	1,675,999	1
器具及び備品	616,024	323,803	292,221
合計	35,508,871	6,537,122	28,971,749

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（のぞみの家用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) のぞみの家拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分事業活動明細書（会計基準別紙3（Ⅹ））  
「のぞみの家就労継続支援B型」  
「のぞみの家生活介護」
- (3) 拠点区分資金収支明細書（会計基準別紙3（Ⅸ））は省略している。

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

（単位：円）

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
建物	0	71,519,618	4,808,324	66,711,294
合計	0	71,519,618	4,808,324	66,711,294

### 6. 会計基準第3章第4（4）及び（6）の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
	0 円
計	0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

該当なし

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	71,519,618	4,808,324	66,711,294
建物	877,580	19,269	858,311
車輛運搬具	5,275,200	2,716,287	2,558,913
器具及び備品	1,824,994	605,277	1,219,717
合計	79,497,392	8,149,157	71,348,235

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（そだちの家用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) そだちの家拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書（会計基準別紙3（⑩））は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書（会計基準別紙3（⑪））  
「そだちの家生活介護」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

（単位：円）

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
建物	0	60,831,111	5,550,668	55,280,443
合計	0	60,831,111	5,550,668	55,280,443

### 6. 会計基準第3章第4（4）及び（6）の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

0 円

計

0 円

計

0 円

0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

該当なし

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	60,831,111	5,550,668	55,280,443
建物	852,500	16,551	835,949
器具及び備品	982,332	626,711	355,621
合計	62,665,943	6,193,930	56,472,013

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（にじの家用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) にじの家拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「にじの家生活介護」  
「にじの家日中一時支援」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
建物	0	62,295,343	2,798,413	59,496,930
合計	0	62,295,343	2,798,413	59,496,930

### 6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
	0 円
計	0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	62,295,343	2,798,413	59,496,930
建物	3,138,021	424,034	2,713,987
車輛運搬具	1,674,163	1,423,530	250,633
器具及び備品	4,317,882	1,165,858	3,152,024
合計	71,425,409	5,811,835	65,613,574

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（みのりの家用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) みのりの家拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(Ⅹ))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(Ⅺ))  
「みのりの家短期入所」  
「みのりの家日中一時支援」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
建物	0	5,489,918	1,372,479	4,117,439
合計	0	5,489,918	1,372,479	4,117,439

### 6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
	0 円
計	0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	5,489,918	1,372,479	4,117,439
建物	725,780	14,000	711,780
器具及び備品	518,668	254,679	263,989
合計	6,734,366	1,641,158	5,093,208

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（友愛の家用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) 友愛の家拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「友愛の家」  
「福祉の村相談支援」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

### 6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
	0 円
計	0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	2,007,280	126,210	1,881,070
車輛運搬具	614,222	614,221	1
器具及び備品	3,199,588	1,778,977	1,420,611
合計	5,821,090	2,519,408	3,301,682

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（こども発達支援センター用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) こども発達支援センター拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「支援センター児童発達支援」  
「支援センター保育所等訪問」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

### 6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
計	0 円
計	0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	1,546,957	8,637	1,538,320
器具及び備品	2,779,484	1,347,462	1,432,022
合計	4,326,441	1,356,099	2,970,342

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（こども支援センターすだち用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) こども支援センターすだち拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「児童発達支援すだち」  
「放課後等デイサービスすだち」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
土地	42,936,001	0	0	42,936,001
建物	66,680,608	0	3,228,178	63,452,430
合計	109,616,609	0	3,228,178	106,388,431

### 6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
	0 円
計	0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
土地	42,936,001	0	42,936,001
建物	70,177,800	6,725,370	63,452,430
建物	1,156,650	18,249	1,138,401
器具及び備品	978,040	418,369	559,671
合計	115,248,491	7,161,988	108,086,503

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（高年者センター岡崎(公)用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) 高年者センター岡崎拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))
  - 「高年者居宅介護支援事業所」
  - 「高年者地域包括支援センター」
  - 「ふじ地域包括支援センター」
  - 「要介護認定調査事業」
  - 「法人後見事業」
  - 「福祉人材育成事業」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

### 6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円

	0 円
計	0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
器具及び備品	3,410,084	1,477,229	1,932,855
合計	3,410,084	1,477,229	1,932,855

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（年金者住宅ゆとりの里用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) 年金者住宅ゆとりの里拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「年金者住宅ゆとりの里」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

### 6. 会計基準第3章第4（4）及び（6）の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

0 円

計

0 円

計

0 円

0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	580,267,218	341,749,527	238,517,691
構築物	3,245,000	594,916	2,650,084
器具及び備品	6,036,251	3,729,613	2,306,638
合計	589,548,469	346,074,056	243,474,413

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（中央地域福祉センター(公)用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) 中央地域福祉センター拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「中央居宅介護支援事業所」  
「中央地域包括支援センター」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

### 6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
	0 円
計	0 円

#### 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

該当なし

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	983,895	5,492	978,403
器具及び備品	1,343,613	546,228	797,385
合計	2,327,508	551,720	1,775,788

#### 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

#### 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

#### 11. 重要な後発事象

該当なし

#### 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（北部地域福祉センター(公)用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) 北部地域福祉センター拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「北部居宅介護支援事業所」  
「北部地域包括支援センター」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

### 6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
	0 円
計	0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

該当なし

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	747,890	4,175	743,715
器具及び備品	1,209,936	537,874	672,062
合計	1,957,826	542,049	1,415,777

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（南部地域福祉センター(公)用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) 南部地域福祉センター拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「南部居宅介護支援事業所」  
「南部地域包括支援センター」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

### 6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
	0 円
計	0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

該当なし

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	709,215	3,958	705,257
器具及び備品	1,769,864	560,436	1,209,428
合計	2,479,079	564,394	1,914,685

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（西部地域福祉センター(公)用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) 西部地域福祉センター拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「西部居宅介護支援事業所」  
「西部地域包括支援センター」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

### 6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
	0 円
計	0 円

#### 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

該当なし

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	818,870	4,571	814,299
器具及び備品	1,343,613	546,228	797,385
合計	2,162,483	550,799	1,611,684

#### 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

#### 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

#### 11. 重要な後発事象

該当なし

#### 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（東部地域福祉センター(公)用)

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) 東部地域福祉センター拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「東部居宅介護支援事業所」  
「東部地域包括支援センター」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

### 6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
	0 円
計	0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

該当なし

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	872,988	4,873	868,115
器具及び備品	1,888,444	599,962	1,288,482
合計	2,761,432	604,835	2,156,597

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（こども発達センター用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) こども発達センター拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3 (㊿))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3 (㊿))  
「こども発達センター等管理事業」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

### 6. 会計基準第3章第4（4）及び（6）の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

0 円

計

0 円

計

0 円

0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	272,993	1,524	271,469
器具及び備品	334,968	216,333	118,635
合計	607,961	217,857	390,104

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（あずき用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) あずき拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「放課後等デイサービスあずき」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

### 6. 会計基準第3章第4（4）及び（6）の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

0 円

計

0 円

0 円

---

計

0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	1,716,880	416,742	1,300,138
器具及び備品	435,612	188,539	247,073
合計	2,152,492	605,281	1,547,211

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

## 計算書類に対する注記（こども支援センターみどり用）

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ① 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）
  - ② 満期保有目的の債券以外の有価証券：市場価格等に基づく時価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品  
定額法によっている。
  - ② ソフトウェア  
残存価額を零とする定額法によっている。
  - ③ リース資産
    - i 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
    - ii 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
  - ① 退職給付引当金  
職員退職手当支給規程に基づく期末要支給を計上している。
  - ② 賞与引当金  
翌年度支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

### 3. 採用する退職給付制度

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

### 4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表等は以下の通りになっている。

- (1) こども支援センターみどり拠点区分財務諸表（第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式）
- (2) 拠点区分資金収支明細書(会計基準別紙3(⑩))は省略している。
- (3) 拠点区分事業活動明細書(会計基準別紙3(⑪))  
「児童発達支援みどり」  
「放課後等デイサービスみどり」

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

### 6. 会計基準第3章第4（4）及び（6）の規定による基本金または国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

### 7. 担保に供している資産

該当なし

	0 円
計	0 円
	0 円
計	0 円

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	17,899,053	1,570,533	16,328,520
器具及び備品	435,612	188,539	247,073
合計	18,334,665	1,759,072	16,575,593

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

該当なし

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

## 10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
	0	0	0
合計	0	0	0

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

